

山形レトロまちあるき

レトロな街並みに心が躍るのは、きっと、その時代を生き、支えた人々の暮らしに思いを馳せることができるから。商業、文化の中心として山形を支えた時代の気配は、今につながる「かつて」の面影。作り物ではない、リアルなノスタルジーが残る山形の街を歩く。

市の中心には、古くからこの地を守り続けてきた、山形城の城跡を整備した霞城公園がある。山形の人々に愛される最上義光公が戦国時代に礎を築いた中心地は、当時の存在感そのままに、山形の街のシンボルとなっている。

園内に立つ旧済生館本館は病院だった建物。木造の4階建てながら、外から見ると3層に見えるその構造から「三層楼」と呼ばれて親しまれている。擬洋風建築と呼ばれる和洋折衷の建築様式の代表格であることから、歴史的にも価値のあるスポットだ。

市街地のシンボルといえばもう一つ、大正初期に建てられた旧山形県庁は、「文翔館」の愛称でよばれる国の重要文化財。様々な映画やドラマのロケ地にもなった重厚感のある造りの建物は、まるでその時代にタイムスリップしたかのような気分を味わえる人気の観光スポットに。建物外観の象徴的な時計は、現在日本で稼働しているものでは、札幌に次いで2番目に古い時計台とのこと。文化、ファッション、建築。あらゆるジャンルで、西洋文化が日本に取り入れられ、独自の融合を果たした唯一無二の時代。そんな時代を全身で感じる事が出来る場所。

街を歩いても、時代の足跡はあちらこちらに。旅籠町はかつて宿場町で、江戸時代には、旅人や商人が行き交う賑やかな場所だった。そんな旅籠町にある「Sura」は由緒ある診療医の家系木村家の住居と診療所だった「旧木村邸」を整備した複合施設。レストランやショップ、ホールが建物の趣をそのままに展開されている。

他にも、旧家の蔵を活用した観光施設「紅の蔵」や、山形城の城濠の流れを組む伝統的な農業及び生活用水である「御殿堰」のある街並み。開業から50年以上愛される喫茶店「白十字」や、パリをイメージした内装に心惹かれる「シャンソン物語」などレトロな雰囲気を楽しめる個性的な喫茶店やカフェの数々。街を歩いているだけで、他の街にはないノスタルジックな光景を楽しむことが出来る。

見るだけではない体験もある。佐藤屋本店、長榮堂、戸田屋はいずれも老舗の和菓子店。古くから人の往来があったこの街には、こうして人々の豊かで彩りある暮らしを支えた店がある。中でも人気の伝統銘菓「乃し梅」は、もともと菓としてつくられていたもの。菓屋にルーツを持つ佐藤屋が、菓子屋を創業してから代々受け継がれ、試行錯誤の上、今の形へと進化していったそう。伝統的な和菓子で、その時代の人たちに喜んでもらえるようにアップデートする。そんなホスピタリティが山形の和菓子文化を進化させている。

そんな山形のレトロな街歩きを、一層楽しくする工夫がある。それが着付け体験。1578年創業の、これまた由緒ある呉服店では、かつて流れていた時間を、存分に味わうことができる「和装」をサポートしてくれる。

着物を着ることで、気分も高揚し、特別な時間を味わうことができる。

江戸から大正にかけて、時代の流れとともに花開いた山形の街と文化。

この新しい時代にあっても色褪せない紅花染のような街の面影をたどり、めぐり、体験する。そんな贅沢な旅がここにはある。

山形レトロ街歩き。

特別な旅の思い出が、次の時代を生きる街とあなたの記憶になる。



シンボル

歴史と発展の

霞城公園と山形城跡

市の中心にあるのが、霞城公園。山形城の城跡を整備した場所です。この城の礎を築いたのが、戦国大名・最上義光。彼が築いた城下町が、現在の山形市の原点となっています。かつて政治や商いの中心だったこの場所は、今も変わらず街のシンボルとして、人々の暮らしを静かに見守っています。

〒990-0826 山形県山形市霞城町1番7



大正ロマンが薫る

文翔館

もう一つの街のシンボルが、文翔館（旧山形県庁）です。大正初期に建てられたこの建物は、現在、国の重要文化財。映画やドラマのロケ地としても知られています。重厚感のある外観と、象徴的な時計台。この時計は、現在稼働している中で札幌の時計台に次いで日本で2番目に古い時計台だと言われています。文化や建築、ファッションなど、西洋文化が日本と出会い、独自の形へと融合していった時代の空気を、全身で感じられる場所です。

〒990-0047 山形県山形市旅籠町3丁目4-51



老舗和菓子店

この街には、佐藤屋本店、長樂堂など、老舗の和菓子店が並びます。古くから人の往来があったこの場所だからこそ、こうした店が育ち、人々の暮らしを支えてきました。中でも伝統銘菓の乃し梅は、もともと薬として作られていたもの。時代ごとの嗜好に寄り添いながら、今の味へと進化してきました。まるで宇宙や宝石のような羊羹「空ノムコウ」は、人気のお土産！ぜひチェックしてみてください。

佐藤屋本店
〒990-0031 山形県山形市十日町3丁目10-3

長樂堂
〒990-0066 山形県山形市印役町1-2-32

color 08

山形レトロまちあるき

レトロな街並みに心が惹かれるのは、その時代を生き、支えてきた人々の暮らしを想像できるからかもしれません。

山形の街には、商業や文化の中心として栄えた時代の気配が、今も自然なかたちで残っています。作り物ではない、本物のノスタルジー。今日は、そんな山形の街を、ご案内します。

YAMAGATA CITY
DAYS
STORIES

着付け体験

レトロなまちあるきを、より特別な体験にしてくれるのが着付け体験です。山形駅近くの「とみひろろうまん亭」では着物レンタルができ、老舗呉服店ならではの、着物で街を歩くためのきめ細やかなサポートも受けられます。コーディネートは、淡いトーンでまとめた同系色づかいがおすすめ。装いが変わると、歩き方や視線も自然と変わる。そんな時間の旅を味わえます。

とみひろろうまん亭
〒990-0039 山形県山形市香澄町2丁目2-42

旧済生館本館

霞城公園の中に建つのが、旧済生館本館。かつて病院として使われていた建物です。木造4階建てでありながら、外からは3層に見えることから「三層楼」と呼ばれて親しまれてきました。和と洋が融合した擬洋風建築の代表例で、当時の人々が西洋文化をどのように受け止め、自分たちのものとして消化していったのかが、建物の細部から伝わってきます。

街の記憶 gura/御殿堰

街を歩くと、時代の足跡はあちこちに残っています。旅籠町は、かつて宿場町として栄え、人や物、情報や文化が行き交った場所でした。その旅籠町の一角にあるguraは、由緒ある木村家の旧邸宅や蔵を活かして生まれた複合施設です。

建物の趣を残したまま、レストランやショップ、イベントや展示が行われる場として使われ、今は街中の居場所のような存在になっています。歴史ある空間の中で、食べる、買う、立ち寄る、語らう。旅籠町の記憶を、現代の暮らしへとやさしくつなぐ場所です。他にも、旧家の蔵を活用した紅の蔵や、山形城の堀につながる生活用水、御殿堰の流れが残る街並みがあります。水音を聞きながら歩いていると、この街が、暮らしとともに形づくられてきたことが自然と実感できます。

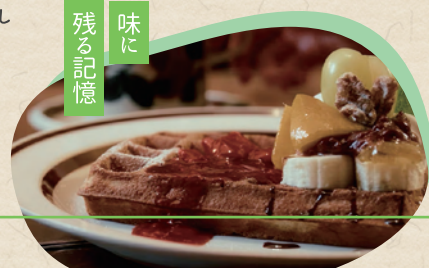
gura
〒990-0047 山形県山形市旅籠町2丁目1-41

七日町御殿堰
〒990-0042 山形県山形市七日町2-7-6

レトロ喫茶とカフェ

街には、長く愛されてきた喫茶店も点在しています。開業から50年以上の白十字、パリをイメージした内装が印象的なシャンソン物語。コーヒーを飲みながら、あえて何もしない時間を過ごす。それも、レトロまちあるきの大切な楽しみのひとつです。

味に残る記憶



和と洋が出会った建築



面影をめぐる

